

言吾石开便り

大東文化大学 語学教育研究所広報(2018.10)

研究発表会のお知らせ

2018 年度第 3 回研究発表会を下記のように開催いたします。

ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日時：平成 30 年 11 月 19 日（月） 午前 11 時 00 分～

場所：大東文化大学板橋校舎 2 号館 6 階 語学教育研究所

①発表者： 荒又 雄介 先生（外国語学部英語学科）

題 目： 「アナトール序曲」を通して見る Wiener Moderne の若者たち

内 容：一般に「世紀末ウィーン」と呼ばれる 19 世紀末のウィーン文化については、日本でもすでに一定のイメージが形成されていると思われる。ハプスブルク王朝の最後の華やき、爛熟期を迎えた市民文化、滅びゆく時代の内に胎動するモデルネなど、その枚挙にいとまがない。ところが、音楽（マーラー、シェーンベルク）、芸術（クリムト、シーレ）、精神分析学（フロイト）などへの高い関心はともかく、この時代の文学については、日本の一般読者には明確な像が結ばないようである。本発表では、この時代の代表的な作家フーゴ・フォン・ホーフマンスタールが、アルトゥーア・シュニッツラーの戯曲に寄せた序文を手掛かりにして、この時代の文学の新潮流とそれを担った若い作家たちを紹介する。

②発表者： 田中 寛 先生（外国語学部日本語学科）

題 目： 中国の「一帯一路」政策と外国語教育・研究

——タイ語の教育・研究を例に——

内 容：中国の「一帯一路」政策にともない、海外に進出する中国企業が増え続けるなか、人的接触、交流も加速している。この場合、自国の文化・言語の輸出と同時に、対象国の文化・言語にも関心が向けられることになるが、本発表では東南アジアでもっとも進出が著しいタイ国を例に現在中国で行われているタイ語教育・研究の一端を紹介し、複数の教科書を例にその特徴を考察してみたい。
(本発表は 2018 年度海外特別研究の報告の一部である)

主催：語学教育研究所